

夢の軌跡に

牧草泉

少年がいた
極東放送から流れ出る
カントリー・ウエスタン
日曜午前十一時
五級スーパ・ラジオに
かじりついた
赤茶けた地底から
湧き出てくるリズム
ハンク・スノーが
「目の前にいた
「ナツシュビルに行きたい」
少年は青年になった
恋をし失恋もした
夢を真綿で包んで社会に出た
ロレッタ・リンが

希望と挫折
信頼と裏切り
友情と諍い
青年は必死で生きた
時間だけが
無情に通る過ぎて行った

少年は老いた
カントリー・ウエスタンも老いた
夢が哭いていた
荒野の果てを歩いていく
母猿が死んだわが子を抱くように
自分を抱きしめて

ある作家の死

「あなたよかったわね 願いが叶って」
女は彼の遺体に声をかけたという
それは彼への侘びの言葉だった
自死を思い止まらせるために
必死で支え抱きしめて
ともに生きてきた軌跡の途絶
その一言に聖母マリアのような
いたわりと慈愛が

女のもつこの優しさが
どんなに彼の孤独を暖かく包みこんでも
満たされることなく彷徨し続けた心の空白
彼はそれでも生きた
誰もいない孤独の道を歩き続けた
そうして
女の愛情も受け入れきれずに

懊悩し 人生をずたずたに引き裂いた
それは愛してくれなかった女の面影を
捨て去ることのない旅だったのか
そうして 彼は自死した

おすらい

啄木 太宰 犀星
そして

高見 山頭火 西行へ
放浪しながら

そして

どこへ行くのか？

彷徨を恐れ

今は 忖むことを恐れる

田中英光よ

教えてほしい

海を渡り

バージニア・ウルフへ

漂い行く

流離い人の行く方を

おまえの勇気は

どこから来たのか

どうして 太宰の墓前に

身を寄せることができたのか

私は知りたい